

第二部 基調講演

「 広重にみる治水と利水の原点・江戸 日本近代文明の萌芽 」

講演者プロフィール

竹村 公太郎（たけむら こうたろう）

立命館大学客員教授、特定非営利活動法人日本水フォーラム事務局長、財団法人リバーフロント整備センター理事長

1945 年生まれ。1970 年東北大学工学部土木工学課修士課程修了。同年建設省入省。中部地方建設局河川部長、河川局開発課長、近畿地方建設局長を経て、1999 年国土交通省河川局長。2002 年国土交通省退官。

現在、河川など水をテーマに、歴史的・文化的な観点から、広く文明論としてのユニークで斬新な説を展開している。日本の歴史、文化、文明が「地形」「気象」という国土の基本に深くかかわっていることから、身近な地形、気象を見つめることによって仮説を立て、数々の都市の謎を解き明かしている。

日本水フォーラムとの関わりでは、日本で開催された第 3 回世界水フォーラムに特別顧問として参加、メキシコでの第 4 回世界水フォーラムでは（財）リバーフロント整備センターとして参加している。2006 年 5 月に代表理事・事務局長に就任、「日本水フォーラムの足腰をどうやって強化していくか」を自らの役目として精力的に活動されている。

また、立命館大学の客員教授として、文明社会の基盤である社会資本の基礎となる「安全」「エネルギー」「交流」などが日本文明をどのように支えてきたかを学生に伝えることで、文明と社会資本の関わりを自ら思考し、未来の日本文明の制約条件と展望を見通していく能力を育てたいと、教鞭をとられている。

主な著書

- ・ 日本文明の謎を解く（清流出版・2003 年）
- ・ 土地の文明（PHP 出版・2005 年）
- ・ 小水力エネルギー読本（オーム社・共著・2006 年）
- ・ 幸運な文明 日本は生き残る（PHP 出版・2007 年） など



幸運な文明

日本は生き残る



地形に感謝、人口減少に感謝、
渡り鳥に感謝!
エネルギー問題、食糧問題などなど
日本の未来を悲観する人、必読。

PHP研究所 定価:本体1,000円(税別)

四六判・上製・240頁 定価:本体1,575円(税込)

竹村公太郎 著

地形に感謝、人口減少に感謝、
渡り鳥に感謝! エネルギー問題、
食糧問題などなど、
日本の未来を悲観する人、必読!

地形や気象、^{インフラ}下部構造から、
**日本文明の歴史と
未来を読み解く。**

困難な21世紀を
生き残るための英知と材料は、
全て日本列島と日本海域に揃っている。

(「はじめに」より)

- I 生き残れる日本文明——エネルギー自給と食糧自給へ
石油問題、食糧問題、温暖化問題などの日本の危機を救うのは、地形、渡り鳥、人口減少、「様子見」作戦!? 未来を構築するための文明論。
- II 生き残った日本文明——土地と歴史の謎
モンゴル軍から日本を救った地形とは? 徳川幕府はなぜ、遊廓を吉原に移転したのか? 地形、インフラ構造の視点から、日本の歴史の謎を解く!
- III 日本文明の存続を支えたもの——アイデンティティーとは何か
「日本語を一つにまとめた江戸時代の政治システム」「赤穂浪士が泉岳寺に埋葬された理由」——日本のアイデンティティーはこうして形成された!

著者略歴

1945年生まれ。1970年東北大学工学部土木工学科修士課程修了。同年建設省入省。1999年河川局長。2002年国土交通省退官。現在、リバーフロント整備センター理事長、日本水フォーラム事務局長。社会資本整備の論客としても活躍。著書『日本文明の謎を解く』(清流出版)、『土地の文明』(PHP研究所)。

2007年7月30日東京の川シンポ

広重にみる治水と利水の原点・江戸

日本近代文明の萌芽

リバーフロント整備センター理事長

日本水フォーラム事務局長

竹村公太郎

- 1、 広重の記録とトリック
 - ・ 真乳山山谷堀夜景の構図
 - ・ 記録されていた江戸

- 2、 家康の関東制圧作戦
 - ・ 小名木川とはなにか

- 3、 家康の関東湿地への挑戦
 - ・ 江戸の隠された出生の地
 - ・ 縄文前期 6000 年前は海の下
 - ・ 利根川の東遷（1621 年）

- 4、 江戸幕府の巧妙な治水
 - ・ 隅田川（大川）の治水
 - ・ お手伝い普請・・・全国の力で
 - ・ 江戸市民が守るインフラ

- 5、 家康の江戸の水確保作戦
 - ・ 江戸を支えたダム、東京を支えているダム
 - ・ 命の水をアウトソーシングした都民

- 6、 21 世紀に向けての東京の安全と存続
 - ・ ニューオリンズ災害とは何か
 - ・ 東京にとって温暖化とは何か
 - ・ 凶暴化する気象
 - ・ 消えていく雪

- 21 世紀を見つめた治水と利水への不断の努力 -

(2007年7月30日)
東京の川を考えるシンポ

広重に見る治水と利水の原点・江戸

—日本近代文明の萌芽—

リバーフロント整備センター理事長
日本水フォーラム事務局長
竹村公太郎

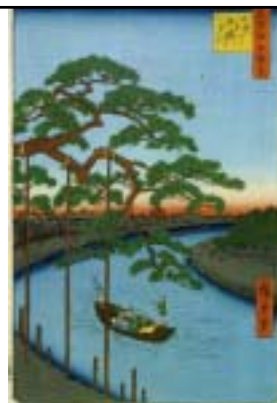
徳川家康の関東制圧作戦

—舟運—



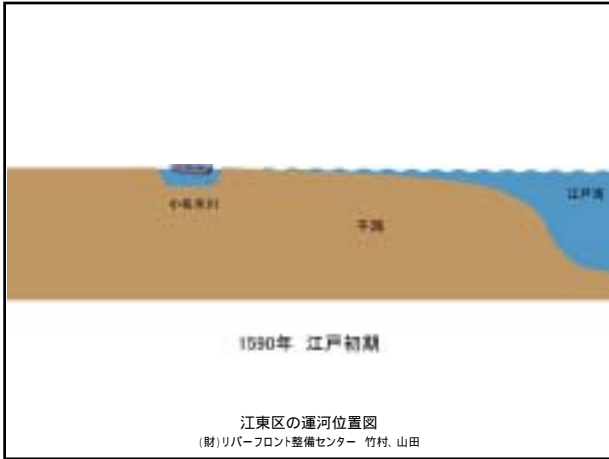
現在の小名木川

写真提供:フロント編集部

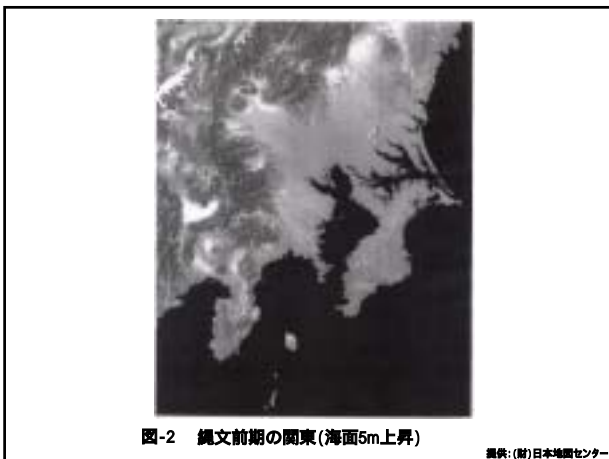


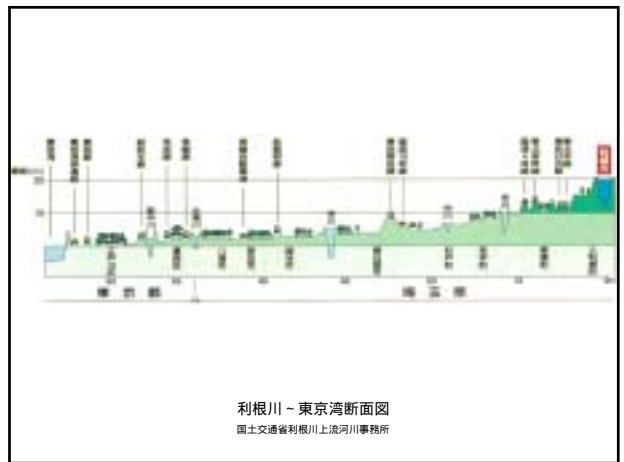
小名木川五本まつ(広重)

1857年



家康の関東湿地への挑戦
 — 隠された出生の地 —

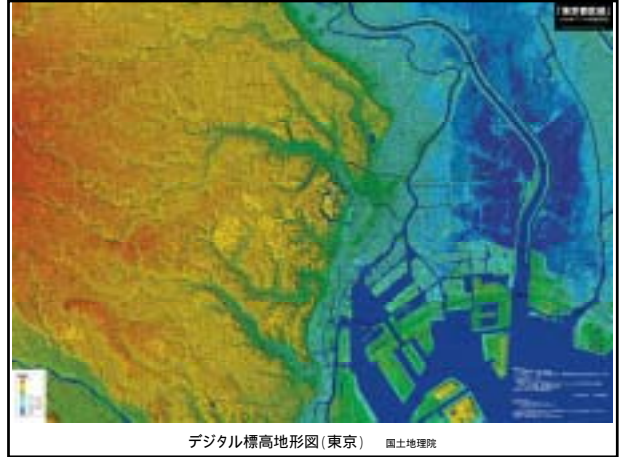






虎ノ門外 あふひ坂

(1606年)

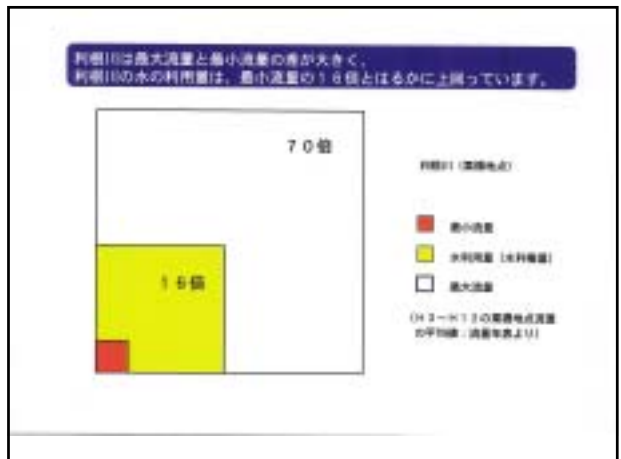


デジタル標高地形図(東京) 国土地理院



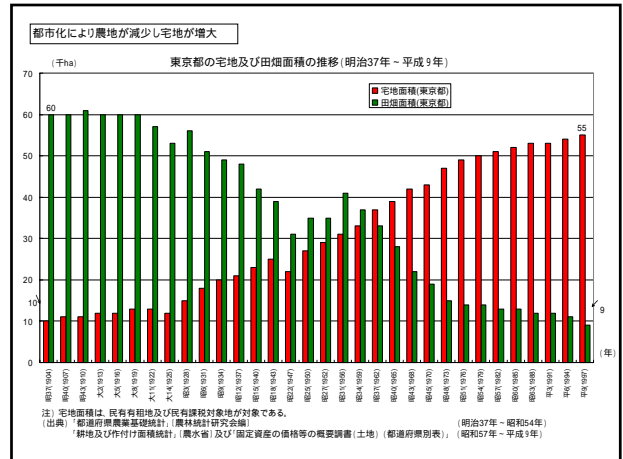
玉川上水(広重)

(1653年)

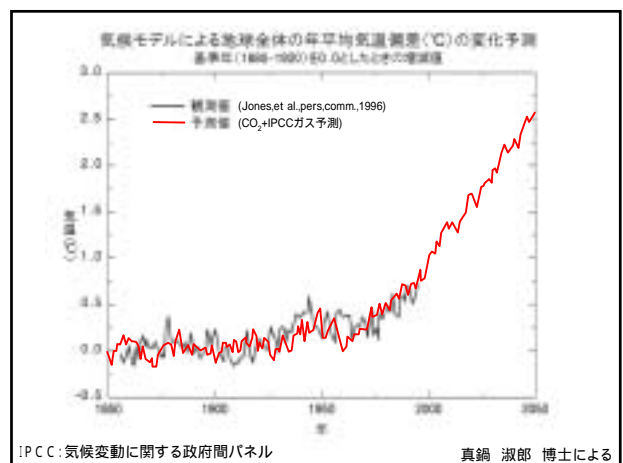


21世紀に向けて不断の努力

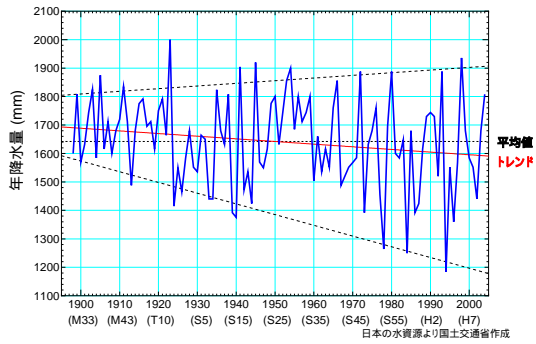
— 治水と利水 —



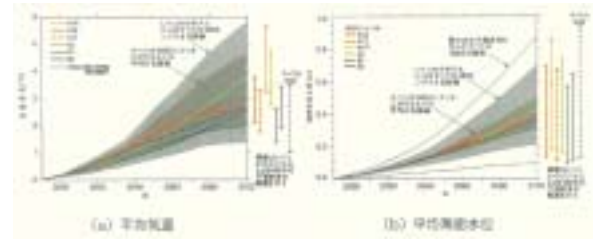
東京にとって地球温暖化とはなにか



過去100年の日本の降水傾向

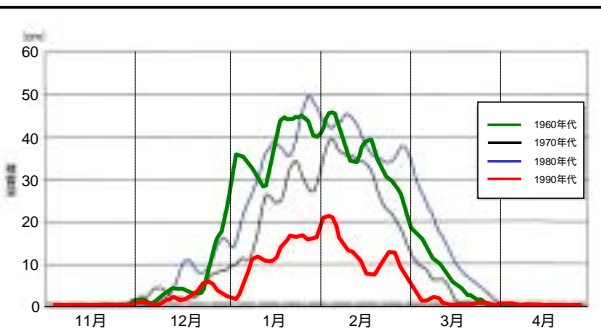


さまざまな気候モデルやシナリオを用いて予測された地球全体の気候の変化予測



出典: 20世紀の日本の気候(気象庁)

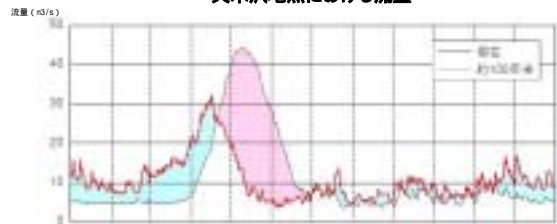
積雪深の変化(富山県)



(注) 1. 気象庁資料により国土交通省水資源部で作成。
2. 積雪量は各年代の年平均値の5日間移動平均である。

日本の水資源 平成14年版より
一部(財)リバーフロント整備センターにより修正

矢木沢地点における流量



1. 現在、100年後ともに気候モデルにより算められた気温、降水量を用いた20年間の流出計算結果の平均値。
2. 絶対値は実際の流量と直接比較できない。現時と約100年後との相対的な変化の傾向に意味がある。

(出典: 日本水資源 平成17年度 国土交通省水資源部)